

# こころのやすらぎ



心理相談員  
佐藤佳子

小学校では、来年度に入学をするお子さんの受け入れ準備を始めています。

来入児の子どもたちは、9月に行われた小学校の運動会で「風車ひろい」を行いました。在校生のお兄さん、お姉さんたちが大勢いる中で、元気がいっぱい走って自分の好きな色の風車を探して持つて行く子や、自分の足元にある風車をひろっている姿がありました。

小学校での行事は、子どもたちにとって初めてのことで、「風車ひろい」をしたことで、

4月から自分が通う学校への希望、学校に行くことへの意識を感じてもらえたら嬉しいことです。

お子さんたちは、どのよう  
に思ってくれているのでし  
ょうか。



「風車ひろい」を機に学校に行くことの楽しさ、ワクワク感を持ってもらえたら嬉しく思います。

保護者の方にも何回か学校へ来ていただきますが、お子さんの様子を観ていただき、入学をする前にお子さんのことで気になることや心配になつてることがありましたらご相談ください。

またお子さんが入学をしていくにあたって、保護者の方々にも学校のことを知っていただき、入学の準備をしてもらえたらと思います。

## 5歳児健やか教室では

保健福祉課健康推進係が主催している「5歳児健やか教室相談会」が今年度も実施されていきます。

お子さんには保護者の方につき添っていただきながら、9月から11月までの間5回に分け、月例順で参加していただいています。

そのときに心理相談員も出席しています。

「健やか教室」は絵本の読み聞かせを行い、専門の先生（理学療法士）に来ていただき、先生から教えてもらう運動をお手本どおりに体を動かしています。保護者の方も子どもと一緒に、同じ運動を体験してもらっています。

また管理栄養士からは、お箸の使い方を習います。  
2時間ほどの教室ですが、

親子のふれあいの時間でもあ  
るように思います。

お子さんができたら「誉めてあげる。拍手をしてあげる」子どもも「お父さん、お母さんが運動をしている姿を見る」というようなことを先生と約束をしています。

約束を忘れてしまう子どもも中にはいます。そんなときは「約束したよね。お母さんがやっているところを見て」と言う親子の会話が聞かえてきます。

声をかけられたそのときの子ども様子は、お母さんの声に反応してお母さんの顔を見て、お母さんのしている姿を見始めます。

一緒に同じことをしているときの子どもは、はしゃいでいる姿のようにも見えますが顔は満面の笑みです。

とても楽しめている時間だと思います。

日常生活では時間に追われてしまっていることが多く子どもが「あのねー」「聞いて」などと言ってくるけれど、時間を取って顔を合わせて聞いてあげることができないことがあるのではないのでしょうか。私も過去を振り返ると多々あったことに気がつきません。

もつと話を聞いてあげればよ  
かったと。

わずかな時間でも良いと思  
います。顔を見て話す時間を  
作って、子どもが笑みを浮か  
べられる日々が多ければと願  
います。

## 心理相談室の利用について

心理相談室では、教育にかかわる心理的な悩み  
の相談に応じています。

ご自身の学校での悩み  
や、お子さんについて心  
配なこと、学校での心配  
ごとをお気軽に相談く  
ださい。

### 相談日・相談時間

相談日：水曜日

相談時間：

午後2時～5時

相談場所：心理相談室

相談料：無料

あらかじめ電話で相談  
日時を決めます。水曜日、  
午後2時～4時30分の間  
にお電話ください。

### 予約問い合わせ先

エコールみやた生涯学  
習係(32)2770または  
(32)9100へかけてい  
ただき、心理相談室内線  
117番へ繋ぐようお伝  
えください。

# 秋の火災予防運動



連絡先 佐久広域連合 御代田消防署(32)0119

消防庁からこのほど「平成24年1月～3月における火災の概要」が発表されました。これによると、全国での総出火件数はこの3カ月間に12,664件で、このうち建物火災は7,530件でした。住宅火災における死者は446人で、このうち65歳以上の高齢者は304人、約7割という高い割合でした。住宅火災における死者の発生した経過別死者数では、逃げ遅れ254人、着衣着火35人、出火後再進入9人が主なものでした。総出火件数を出火原因別にみると、「放火」が第1位(11.1%)、「たばこ」が第2位(9.5%)で、特に、「放火」および「放火の疑い」を合わせると2,316件もあり、18.3%も占めています。建物火災の出火原因は第1位から「こんろ」、「ストーブ」、「たばこ」、「放火」、「配線器具」の順でした。これから年末にかけ、火気を取り扱う機会も必然的に多くなり、火災の発生も憂慮するところですが、上記の出火原因からポイントをまとめてみましたので、みんなで火災予防に努めていきましょう。

## 《放火されないためのポイント》

- 家のまわりに燃えやすいものを置かないようにし、常に整理しておく。
- 不審者から地域を守り、いざとなったら大きな声で互いに応援を求められるよう、日ごろから隣近所のつながりと連携を大切にしておく。



## 《普段から火事にならないように注意すること》

### 火災は、注意さえしていれば、ほとんどが防げます》

- 寝たばこは絶対にしない。寝ると決めたら、たばこの火は確実に消す。
- マッチやライターを子どもの手の届くところに置かない。
- 天ぷらを揚げるときは、その場を離れない。コンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。
- ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。洗濯物を干すときやカーテンには充分注意する。
- これからの時季は乾燥しやすいため、枯れ草や枝の焼却をする際には、風の強い日を避ける。
- たばこの投げ捨ては絶対にしない。大人のマナーとして問題外。携帯灰皿を自然に出すのがエチケット。

## 《万が一火事になってしまったときに有効なもの》

- 火災による死者、逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。現在、設置は義務付けられています。
- 火災を小さいうちに消すために、消火器などを備える。初期消火により火を小さいうちに消し止められるかどうか、被害を最小限度に防ぐことへの分かれ目です。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制を日ごろから作っておく。
- どんなに小さな火であっても注意を払い、もし火災が起きてしまったら、早く119番通報する。

11月9日(金)～15日(木)まで全国一斉に火災予防運動が実施されます。火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、火災の発生を防止し、火災による死者や負傷者を減少させることを目的とするこの運動を機に、防火防災について家庭や職場で話し合ってみてはいかがでしょうか。火災は注意すればそのほとんどが防ぐことができます。たとえ小さな火であっても注意を怠らずに、火災から尊い命と財産を守り、明るい家庭、明るい地域をみんなで築いていきましょう。

**消すまでは 出ない行かない 離れない** 平成24年度全国統一防火標語

火災予防運動中は、火災予防啓発のため、消防職員および消防団員による消防車両での広報活動や警鐘楼の鐘を鳴らします。火災予防の周知徹底を図るためですので、ご承知おきください。